

国際 e ビジネス学会優秀論文賞受賞報告

英語論文執筆プロジェクトとは...?

英語論文執筆プロジェクトとは、1人でも多くの人に論文を見てもらいたいというゼミ生の熱い思いから、マーケティング発祥の地アメリカの主要な言語である英語で論文を執筆し、学者と学生が分け隔てなく発表できる海外の学会に投稿し、審査を経て発表権を得ることを目標とした研究プロジェクトです。我々は国際 e ビジネス学会を投稿先として選択し、投稿しました。その結果、サンフランシスコでの学会発表権を得ただけでなく、数百本の論文の中から優秀賞に選ばれました。

英論メンバー紹介



当たり前のように朝から晩まで話し合う。徹夜もたくさんした。現状に満足せず、時間がある限りより良いものを追求する。この小野ゼミの精神こそ、自分がこの1年間で頂いた最高の賞ではないだろうか。

日浦 一樹

人前で華々しくプレゼンした他の論文チームと比べれば、英論は学会に提出したものの、目に見える成果がなかなか得られず、何となく残念な印象が私の中にはあった。これでみんなと肩を並べて、論文頑張った！って言い切れます。

菊盛 真衣



昨年の春合宿にて、みんな英語がそんなに得意でないにもかかわらず、なぜかその場のノリで、英語で論文を書いて海外に投稿することに決めましたが、あの時のノリが、まさかこのような形なるとは思いもよらなかったです。

岸本 啓太郎

帰国子女のくせに英語が苦手な私にとって、英語論文の執筆という困難な課題に挑戦することは非常に勇気のいることでした。しかし小野ゼミ屈指のキャラの濃いメンバーを信じて一歩踏み出したことにより、身の丈を超えるような大きな成果を上げることができました。

松本 奈保子



英語で論文を執筆し、学会に提出はしましたが、正直自分達がどのくらい凄いことをしたのかという実感が持てていなかった私にとって、賞という形に残すことができたことは、非常に大きな達成感につながりました。きっと優秀賞の価値も把握しきれていないでしょうが、充分すぎるほど満足しています。中川 美穂

他の論文チームが、華々しくプレゼンテーションをする姿を内心羨ましく思っていたあの頃、満場の拍手に包まれた同期生の「やりきった」という顔つきが目には眩しく映っていました。けれど、今の私の顔も、きっと、「やりきった」顔になっているのだと思います。

氏田 宗利

